

平成30年第50週 県中保健福祉事務所感染症レター

(H30.12.10~H30.12.16)

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第50週	第49週	第50週		第49週		第50週		第49週		第50週		第49週		第50週		第49週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	77	59	9	3	1	1	9	0	0	1	0	3	0	0	0	0	1	0
咽頭結膜熱	36	28	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	149	186	3	0	11	0	1	0	4	0	0	0	0	2	0	7	0	
感染性胃腸炎	289	290	78	32	86	14	67	10	82	9	0	15	0	3	11	7	4	4
水痘	39	36	8	12	12	14	8	12	12	12	0	0	0	1	0	0	0	0
手足口病	48	31	3	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1
伝染性紅斑	60	39	2	1	5	3	2	1	2	0	0	0	3	3	0	0	0	0
突発性発疹	36	25	7	0	2	0	6	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	
ヘルパンギーナ	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	8	7	5	4	2	2	1	0	2	0	4	3	0	1	0	1	0	3
RSウイルス感染症	52	61	11	0	5	2	7	0	5	0	0	0	0	1	4	0	0	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0			0
流行性角結膜炎	21	19	0	1	1	0	0	1	1	0		0			0			0

※平成30年1月1日より百日咳が全数把握疾患となりました。また、風しんの届出が「診断後7日以内」から「診断後直ちに」と変更になりました。  
 ※平成30年5月1日より急性弛緩性麻痺が全数把握疾患となりました。

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況	
<p><b>流行中</b></p> <p>〈水痘〉 水痘帯状疱疹ウイルスによる感染症で一般的に「みずぼうそう」と呼ばれています。感染経路は空気感染、飛沫感染、接触感染です。潜伏期間は2週間程度。典型的な症例では発疹は紅斑から始まり、水疱、膿疱を経て痂皮化して治癒するとされています。</p>	<p>※飛沫感染 患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことで感染します。マスクの着用や咳エチケットを実施してください。</p> <p>※接触感染 細菌が付着した手で口や鼻に触れることで感染します。手洗い、うがい、頻繁に人が触れる場所(ドアノブ等)についての環境整備など基本的な対策を徹底することが必要です。</p>
<p><b>小流行中</b></p> <p>〈A群溶血性レンサ球菌咽頭炎〉 A群レンサ球菌による上気道の感染症です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p> <p>〈感染性胃腸炎〉 食品や飲料水をとおり経口的に細菌、ウイルスなどの病原体が腸に感染してさまざまな消化器症状を引き起こす病気です。</p>	

**全国で風しんが流行しています！！**

○風しんの発生状況

関東地方を中心に風しんの報告が増加しています。また、関東地方以外にも愛知県・大阪府・福岡県にて報告が増加しています。第49週までに全国で2,586例報告されており、平成29年の報告数が93人を大幅に上回っている状況です。

年末年始は人の往来が多くなる時期です。帰省や旅行先で風しんが流行していることも予想されますので注意が必要です。

○予防するには

特異的な治療法がないため、感染しないように予防することが大切です。感染を防ぐ最も有効な方法は、予防接種を受けることです。感染経路は飛沫感染、接触感染のため不用意に人混みに出かけることは避けましょう。帰宅したら手洗い・うがい等を行うように心がけましょう。

○特に妊娠中・妊娠の可能性のある方は注意が必要

妊娠20週頃までの妊婦が風しんに感染すると、児に白内障、先天性心疾患、難聴等(先天性風しん症候群)が生じることがありますので、風しんにかかっている可能性のある人との接触は可能な限り避けてください。

○予防接種は受けていますか？

・予防接種は生まれた日や性別によって定期予防接種の対象になった時期が違います。下記表は年代別・男女別で予防接種が定期になった時期を表しています。母子手帳等で予防接種を受けた記録を確認しましょう。

・現在、風しんは定期の予防接種となっています。時期をずらして2回予防接種を受ける必要があります。特に小学校入学前1年間で受けることを忘れてしまう場合がありますので注意してください。

第1期：1歳以上2歳未満  
 第2期：5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学前の1年間

・定期予防接種以外にも自己負担で予防接種をうけることは可能です。希望される場合は主治医に相談しましょう。



生年月日	ワクチン接種状況
昭和37年4月1日以前生まれの男女	定期接種が行われていませんでしたが、大半の人が自然に風しんに感染することで免疫があります。
昭和37年4月2日～昭和54年4月1日以前生まれの男性	中学生の時に女性のみを対象として、学校で集団接種が行われていたため、自然に風しんに感染する機会が減少しましたが、男性は定期接種制度が行われていないので風しんの免疫がない人が多い世代です。
昭和54年4月2日～昭和62年10月1日生まれの男女	男女とも中学生の時に個別に医療機関で予防接種を受ける制度であったため、接種率が低く、風しんの免疫がない人が多い世代です。
昭和62年10月2日～平成2年4月1日生まれの男女	男女とも幼児のときに予防接種を受ける対象となり接種率は比較的高いですが、自然に風しんに感染する機会がさらに減少したため、接種を受けていない人には風しんの免疫がない人が比較的多い世代です。

この情報に関するお問い合わせ先: 県中保健福祉事務所 医療薬事課 感染症予防チーム

TEL: 0248-75-7818 E-mail: kenchu\_kansensyoyobou@pref.fukushima.lg.jp